

ソウUNKロオビナミシャク

Heterothera taigana sounkeana (Matsumura)
チョウ目・シャクガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では三ノ峰にのみ生息する。1995年に県内で初めて採集され、2015年にも三ノ峰で得られている。生息地は白山国立公園特別保護地区内で環境は保全されているが、登山客の増加の影響が懸念され、今後注視が必要である。

種の特徴

開張はオスで28～33mm、メスで31～34mm。前翅の地色は茶褐色で基部と中央部はやや暗色になる。外横線は弱く波状に走る。後翅は暗色で横脈点が生じる。本州では亜高山帯～高山帯に生息し、ハイマツを食草とする。成虫は7～8月に出現する。

分布

北海道、本州（東北地方、中部地方の亜高山～高山帯）に生息。これまで石川県の加賀白山が分布の西限とされてきたが、三ノ峰でもみつけた。

生息を脅かす要因

県内の生息地は白山国立公園特別保護地区に指定され、環境は保全されているが、登山客の増加に伴う亜高山帯の植生の踏み付け等の影響が懸念される。

参考文献 岸田（2011a）、下野谷・梅村（2012）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

オナガミズアオ

Actias gnoma (Butler)
チョウ目・ヤママユガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回は1地点で確認されたのみ。全国的に平地部で生息環境が悪化しているとされる。もともと県内での記録は多くないが、近似種のオオミズアオとの判別が難しいため、過去の本種、オオミズアオの記録の精査も含め、正確な生息状況の把握が必要である。

種の特徴

開張オス80～90mm、メス90～100mm。オオミズアオに非常に似ており、触角の色、前翅の形、前翅外横線や後翅眼状紋の形状等で区別する。湿地、河川敷等に生息し、幼虫はハンノキ、ヤシヤブシ等を食草とする。成虫は年1～2回、5～8月に出現する。

分布

北海道～九州に分布。県内では大野市小池、敦賀市、小浜市下根来で従来記録があり、今回も大野市小池で生息が確認された。

生息を脅かす要因

湿地開発や河川開発に伴うハンノキ林の消失が脅威となる。大野市小池は本種の生息地として安定していると考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、井崎（1971）、岸田（2011a）、梅村ら（2011）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○										○	

スキバハウジャク

Hemaris radians (Walker)
チョウ目・スズメガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

県内では1994年の大野市六呂師での記録以来確認されていなかったが、2015年に勝山市内で見つかった。草地性の種で、草地の管理放棄等が原因で全国的に減少しているとされる。本県でも注視が必要である。

種の特徴

開張40～45mm。翅は外縁が黒褐色で中央部は透明。後翅の基部から後角にかけて橙色を呈する。草地に生息し、成虫は年2回、5～9月に出現する。食草はオミナエシ、オトコエシ、スイカズラ、アカネ。

分布

北海道～九州、対馬、沖縄に分布。県内では旧丸岡町、旧美山町、大野市、池田町、永平寺町、敦賀市に古い記録、大野市南六呂師、小浜市多田で比較的最近の記録がある。

生息を脅かす要因

主要な食草であるオミナエシの生える草地在り開発や植生変化により失われており、本種の個体数の減少につながっているとされる。

参考文献 福井県博物学会（1938）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、井崎（1971）、岸田（2011a）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○			○	○	○				○	○	○